

◆〈舞鶴市芸術創造普及事業〉第20回ワンダフル舞鶴写真展「公開審査会」を開催 入賞作品決定!!



去る2/20(日)13:30から総合文化会館小ホールにおきまして、第20回 ワンダフル舞鶴写真展「公開審査会」を行いました。今回、59名(126点)の作品をご応募いただきました。19名の見学者が見守る中、審査員の中田 昭先生(社)日本写真家協会会員)による厳正な審査を行い、市長賞、教育長賞、文化事業団理事長賞、特選を各1点、入選10点、特別賞1点を選びました。

写真展では、入賞作品の他にご応募いただいた全作品と、第20回を記念して昨年の夏休みに開催した「子ども写真教室『まいづるを写そう』」に参加していただいた「チビッコ写真家」13名の作品も併せて展示いたします。何れも、舞鶴のすばらしさがよく伝わる作品ばかりです。どうぞお楽しみに。

[第20回ワンダフル舞鶴写真展]

- 会 期: 3/18(金)～3/21(月・春分の日) 10:00～17:00
- 会 場: 舞鶴市総合文化会館小ホール
- 入場無料



審査員: 中田 昭先生



皆さんの視線を浴びながら…



審査をします

※公開審査会の様子

◆ 上位入賞作品

入賞された上位3賞の作品に、審査員、中田 昭先生の講評を添えてご紹介します。



市長賞「空を泳ぐ」 奥田智美さん

(講評)

深い色調で、空高く鯉のぼりが吸い込まれてゆくような幻想的な表現は、見る者に時空の広がりを感じさせスケールの大きい作品である。作者の感受性の豊かさ、撮影時刻などのタイミングや、広角レンズを使った撮影テクニック、すべてがベストの状態で撮影されている。そして、手前の鯉にコントラストをつけるために、ストロボを発光するなど、細やかな気配りが画面に生かされている。今後の作品の展開が楽しみである。



教育長賞「朝風」 古橋 保さん

(講評)

朝の光が、波を黄金色に染め、波の形も緊張感のある瞬間が捉えられている。遠景にも黄金の光りの筋が横に伸び、お互いが響きあっている。鳥影やたなびく雲がグレートーンで、波の輝きがいっそう効果的になった。

作者は、同じ場所を何度も撮影し、出来上がりまで想像しながら、天候条件等を選んで、粘り強く撮影したのではないかとと思われる。



文化事業団理事長賞「一休み」 河田長友さん

(講評)

満開の桜と快晴の空、目の前の海。そして、ベンチに後ろ姿で座る老夫婦(?)。のどかで、ありふれた風景でありながら、なぜか目が釘付けになる作品である。

無言の時間が流れていたのか、どんな会話が聞こえたのか?。また、二人はどんな人生を送ったのか。様々な想像を鑑賞者に抱かせるが、ふっと作者自らの人生や、思い出が投影されているのでは、とも思えた。



審査員:中田 昭先生

(審査員略歴)

中田 昭(なかた あきら)

写真家。1951年京都市生まれ。

日本大学芸術学部写真学科卒。

京都の庭、風景、祭り、行事等を中心に広く撮影を続けている。

2001年から、JR東海 車内誌『ひととき』の表紙写真を連載中。

(社) 日本写真家協会会員、日本写真芸術学会会員

[主な著書・共著]

『京都の祭り暦』『京都の大路小路』『源氏物語を行く』『春夏秋冬 京都四季めぐり』(小学館)

『京都桜・夏・紅葉・冬物語(全4冊)』『幕末京都』(光村推古書院)

『京都御所 大宮・仙洞御所』『桂離宮 修学院離宮』(京都新聞出版センター)

近著に『京都 四季の庭園』(光村推古書院) など。